

めだかの学校だより

令和4年5月1日

第115号

学舎：磐田市敷地

「旧豊岡東小学校」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一一五回 校長 村松 幸範

「あれやこれやと」
「めだかの学校は」は、本学のテーマ曲である。作詞者は、茶木滋。この曲が閃いたのは、彼が住んでいた小田原市の用水沿いを幼い息子と散歩をしている時であった。用水をのぞき込んでいる息子が「めだかがいるよ。」という。彼ものぞき込むとめだかはいなかった。彼が息子に「大きな声をだすから逃げてしまったよ。」と言うと、息子は「大丈夫。また来るよ。だってここはめだかの学校だもん。」と言ったと言う。このやりとりが詩のモチーフになったという。数年前にこの用水からめだかが消えたそう。最近また復活したとか。（種類は以前とは違うが）。以上は、某新聞の受け売り。去つたものがまた集まるという事は、そこに集まる必然性があるのであろう。
さて、わたしがこの出稿の依頼を受けたのが、切十日前であった。「何を書けば。」と考えた時、このテーマ曲を思い出した。わたしがこの学校に入学したのは数年前。コロナ渦で休校と

欠席が続く、留年に留年を重ね、殆ど単位を消化していない。それどころか退学寸前であった。従って会員の顔が思い出せない。（事務局長は別として）。わたしは、この学校の良さは大きな声で合掌(?)してもめだかは逃げない。その上、誰が生徒か先生か見分けがつかない。誰もが先生で誰もが生徒なのだから。わたしは、永年留年で卒業はしないつもりでいる。きっと生徒の誰もがそう思っていると推測する。
私は、人の生き様を知る事が大好きである。特に、歴史上の人物の生き様を知る事が。中でも戦国乱世に生きた人物（学生時代に少しかじったが）は特に興味がある。作家の多くが、その時代の人物を書いている。それらの作品を拝読すると、まるでその当時に生きてきたかのように、またその人物に成り代わって著している。古文書に残されているのは僅かな記載だが、本当にびっくりする。史的事実が判明出来ない箇所も推測して事実と繋ぎあわせている。英雄豪傑は無論のことそれ以外の人物も。その時代に生きた人物の生き様にも多いに興味湧くのである。何故という疑問を解決してくれる。例えば、明智光秀が「何故信長を

殺したのか。」は、近年様々な説で出版されていて、大いに興味湧く。四百年以上前の出来事ばかりではない。徳川幕府末期もかりである。史的事実が判明し、維新に貢献した人物の生き様は知らされているが、小粒であるがピリリとする人物がいる。その人は、備中松山藩板倉家（岡山県高梁市）の山田方谷。藩主板倉勝静は彼に一目を置いた。そのお陰で、莫大な借財を抱えた藩の財政を立て直したばかりか、膨大な貯蓄を生み出す事に成功している。藩主板倉勝静は幕府老中の中核となり激動の時代の幕府の舵取りを行った。維新後藩主は、上野東照宮祠官を拝命した。方谷は、常に備中松山に暮らし藩主を支え続けた。彼の生き様「誠実と勤勉」を私は多いに学ばなければならぬ。
私が、めだかの学校に入学した時、名札に柿栽培と記載した。（退職後、母の遺した次郎柿作りを継続したのだ）。それから十数年を経て何とか物になってきた。柿の販売で生計を立てるのではなく、「美味しい。旨い。」と言ってくれば満足なのだ。どうすればそんな柿ができるのか。人の味覚は、百人百様で様々だ。旨いと感じるのは、視覚に訴えるのが一番。「大きな柿を作る。赤い柿を作る。」に徹する意外にないかと悟り、一個三五〇グラムの柿を目指した。お陰様で栽培の指導方法を伝授して下さる方（めだかの生徒）があり近づきつつある。苦労はあるが「美味しい。旨い。」と言って貰えるように「誠実と勤勉」をモットーにしている。

めだかの学校伝言板

第115回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／村松幸範

教頭／山中幸子

用務員／横山忠志

給食係／大島たまよ・埋田千聡・榊原淑友

※給食は取り寄せです。

<学舎>静岡県磐田市敷地 782-1

「旧豊岡東小学校 サブセンター（体育館）」

※今回もコロナの関係で学舎が変わります。

開校日／令和4年6月4日（土）正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）

29期通年テーマ：『Oh ニューめだか ショウタイム…?』

今回のテーマ：《言葉がかたりかけるもの、とは》

<時間割>

●1時間目 国語

「言霊ってなに…?」小嶋良之先生

●2時間目 社会

「儲けものの命って…?」野村諒子先生

●3時間目 道徳

「おもろい人財育成って…?」花井孝先生

●給食の時間はあります。

PM3:15 閉校

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■『かがり火』最終号をお届けいたします

春は卒業式のシーズン、おかげさまで『かがり火』も無事卒業できることになりました。本当に長い間、無名で小部数の雑誌とお付き合いいただきありがとうございます。お名残り惜しゅうございますが、ひとまずお別れを申し上げ、皆さまのますますのご活躍を祈念申し上げます。

薬物が検出されたワリエワ選手は可哀そうでした。小生などは順天堂医院を退院以来、薬物漬けの日々です。つくづく日本の高齢者は恵まれていると実感したのは入院費の精算です。胸骨を縦に半分に分けて、そこからメスを入れて冠動脈の詰まった血管と健全な血管を取り替えるという難度の高い手術と看護師さんたちの手厚い看護を受け、15日間も三度の食事をいただき、レントガルの寝間着やら何やらすべてひっくるめて費用が19万円でした。



医療費が安く済んだのは高齢者の1割負担のおかげですが、社会保障費をそれだけ圧迫したに違いありません。どこかうしろめたさを感じながらも個人的には大変

有難いと思ったものです。それなのに年金が減るといふ新聞記事を読むと舌打ちしたくなるのですから年寄りには勝手なものです。(省略)

高齢者世代は経済成長長期に現役だった人たちで、昼も夜も猛烈に働き日本を経済的に豊かにした人たちです。しかし関係性を断裂させ、優しさの無い社会をつくってしまったのもこの世代です。希望の未来を創るのは若者たちではない、いま病院通いしている老人たちの奮起にかかっていると思うようになりました。

『かがり火』は定期的な発行はこれで終わりですが、一区切りつけた後は同じ思いを共有する人たちと人生のお礼奉公として何ができるか考えたいと思っています。花占いに例えて言えば、アイシテル、アイシテナイと交互に引いてきて最後はアイシテルを引いて人生を全うしたいと思っています。お付き合いいただけの方は、kagarihibi@sugawara.comまでご連絡いただければ幸いです。それでは皆さま、ひとまずさようなら。

2022年2月吉日

『かがり火』発行人 菅原敏一

このようなメッセージを添えて『かがり火』最終号が届きました。菅原さんをはじめ多くのめだか生が読者であり、支局長となつています。またこの最終号には何人かのメダカ生の名前もみえます。この最終号「第115回めだかの学校」に持参展示します。お楽しみに。(事務局 榊原幸雄)

■人生ドラマ「最後のクライマックス」開演したいものです

静岡清水区の花井孝メダカから、久しぶりの便りで生存を知り安堵しております。私は相変わらずコロナは屁とも感じておりませんが、世間の目もありますのでマスクだけは持ち歩いております。“嫌われ者！憎まれっ子！世に憚る”は真理です。従ってコロナには負けるはずは無いのです。いずれにしてもメダカの生徒の方々は高学年生が多数で、コロナに感染したらスグうちコロナの対象者ばかりで…とにかく大変です。私は例によって現役を続けております。知人企業の社員研修と牧之原市商工会事業が契約で、牧之原市のまちおこし活性化計画は人づくり、人材育成からスタートと言う事で、“地域リーダー塾・地域未来塾の名称で二年目になります。

私から提案は集大成と申しますか、不真面目そうに観えて実に真剣に本気で、このプランを実践すれば牧之原発の情報は全国に拡散、拡大してそれなりの効果は間違いないと考えているアイデアですが、行政も商工会も、それを理解できる能力は持ち合わせていない様で残念です。これには人生最後の、花井企画と考えて時間をついやして、様々な見本、形を製作までしたのですが…。又、折があればめだかの生徒の皆様は披露して自慢したいものです。とにかく面白くて本当に楽しいプランです。…途中省略…

めだかの学校だより2月1日号の校長訓話。野村諒子校長の“儲けものの命…”の話。人々の死の場面に立ち会って人生観、価値観の変化…。仲々興味深く拝読しました。“儲けものの命…”。いい言葉ですね。私の人生観にピッタリです。

野村さんの出身地、小山町のスピードウェイから救急車で御殿場病院に、一度は二日後に目覚めて第一声が「オレは何して、ここはどこ、水のみたい」だったそうです。その後二度ほど死線を越えて、い

まだに生存しております。文字通り儲けた命ですが…。きっと御仏が「お前が来ると厄介者だ、後少し人間で苦勞、人の為等々修行を重ねね」と順番に加えて戴けないのかも…。やはり、世に憚る“者”の様で、とにかく命がけのスポーツに明け暮れた青春の日々でした。人間様々、人は色々な体験、経験を重ね、文字通り人生ドラマを感じます。さて、最後のクライマックスドラマを開演したいものです。御機嫌よう。

2020・2・22 花井孝

※私だけで読むのは勿体ないと「泳ぎ回るめだかたち」に載せさせていただきました。ただ絵入りの美味しい、「まぐろ丼」の項目のところは省略させていただきます。でも食べたらい！(笑)。(バラメダカ)

『人・ひと・トト…だより』

●磐田市の安形恵子メダカ。4月の袋井市の人事異動で、総合健康センター長から市民生活部長へ。袋井市民の生活に寄り添いながら歩むことに。

●小田原市の溝口久メダカ。4月から茨城県境町に加え、神奈川県松田町と福岡県築上町の参与を務めます。知恵のネットワークができそうで面白いですね。公民連携による公共施設の再生と地域おこし協力隊を絡めた活用、ふるさと納税倍増が小生の課題です。だって、いやはや大モテでございませぬ。でもやりすぎには気をつけて…。(笑)

●横浜市の山根圭一メダカ。おもしろヒト・タテ。めだかのガッコウ、ターレがセイトカ先生か、そつとのぞいて見てもらん。校長先生の読書感想文知りたらい。おもしろ人立めだかの学校だより。スゴイ校長先生が赴任されたもんだ。事務局長さ

トピックス

■『鈴木真弓 一本の糸からの共鳴』
浜松市の鈴木真弓メダカ。浜松市中区助信町のギャラリー ケイブ C A V E で『鈴木真弓 一本の糸からの共鳴展』と銘打って、マクラメの作品を展示。期日は4月30日(土)・5月1日(日)・5月7日(土)・5月8日(日)・5月14日(土)・5月15日(日)の6日間、時間は11時～18時まで。5月14日は16時から、ダンサーの松田英子さんと映像のコラボレーション。一本の糸から広がるコラボレーション。マクラメとダンスと映像、すばらしいコラボレーションでした。

■事務局だより

だいぶ暑くなりました。お元気ですか？
相変わらずコロナウイルスの感染は収まらず困ったものです。このごろはロシアのウクライナ侵略のニュースが毎日のように報道されています。共に一日も早く収まって欲しいものです。

さて、私の机の上は「めだかの便り」の発行時期になると、届いている手紙やハガキ、メダカ生との関係したチラシ、ノートや原稿用紙、名簿、国語辞典などで散らかり始める。整理しておけば引つ張り出せるのにそれができない。ひっきり返して探す。今は窓のすぐ上でツバメのチイチイの声も加わって、いや～賑やかでございますよ。ノートと言え、届いている手紙やはがき、このごろはLINEで送られてくる。「めだかの便り」で使えそうな素材

をノートに書き出し、コメントをつけてまとめておく。いよいよ発行時期が近くなると、それらを推敲し、原稿用紙に書き写す。それをお手伝いして下さっている人に、FAXや手紙で送る。お手伝いの人は、それをパソコンで打って、間瀬亮太メダカにメールで送る。数日後割付を送って間瀬メダカがまとめてくれる。そのままめたものがFAXで送られてくる。校正してレイアウトに合うように調整してFAXで返送。直されたものがFAXで届く。再構成しOKであれば完了。その間に、封筒への宛名書き、生徒の顔を見ながらの一言書きをし、同封しておく。そのあと記念切手を貼って、便りが印刷されてくるのを待つ。便りが届けば三つ折りし同封して敷地郵便局へ持っていく。一連の作業はこれで終わる。さて、あとはみなさんからの返事を待っている。郵便屋さんに来るたびに、一喜一憂。ワクワクドキドキ。それこそが次へのエネルギーになる。このごろはそのエネルギーもダウン気味なのである。

さて、第114回めだかの学校は3月5日土曜日、この時期はオミクロン株によるコロナ感染が大幅に増加し、静岡県も国にまん延防止を申請したこともあって「休校」に。野村諒子校長、秋山勝則教頭、横山忠志用務員の素敵な人だったが残念。次回第115回の三役は、独断と偏見で、校長村松幸範、教頭山中幸子、用務員横山忠志に決める。

第115回の職員会議を、4月9日(土)午前10時から磐田市敷地の豊岡東交流センターで開く。出席者は村松幸範校長、山中幸子教頭、横山忠志用務員、



鈴木真弓メダカ、榊原淑友メダカ、鈴木正士メダカ、事務局の榊原幸雄メダカの7名遅刻連絡のあった人もいたので、その間にホワイトボードに、日時、第113回と114回の通年テーマと、今回のテーマと校長名を書いて置く。10時半も過ぎたので、全員が集まらなかつたが話し合いを始める。日程は、令和4年6月4日(土)12時受付から。テーマは第113回からスライドさせて、通年テーマは「oh ニューめだか ショウタイム」に、今回のテーマは「語りかけるものとは？」に。授業については第113回の小嶋良之校長と第114回の野村諒子校長が休校で校長訓話ができなかつたので、一時間目 国語「言葉ってなに？」小嶋良之先生に。二時間目 社会「儲けものの命とは？」野村諒子先生に。三時間目 道徳「おもしろい人財育成って？」花井孝先生に決める。三者三様、質も高そうで面白そう。給食については、取り寄せで、3密にならないよう配慮して、特定の席は設けず、外でもいいし、舞台上でもいい。各自自由なところで食べることにしました。11時過ぎに鈴木正士メダカと幸子メダカが来たので決まったことを説明、了解を得る。全員集まったところで村松校長と山中教頭、横山用務員にひとことしゃべってもらって、最後にめだかの便り用の写真を撮って終わる。授業については小嶋メダカと花井メダカにはショートメールで、野村メダカとはLINEで連絡する。欠席者の石野省三メダカ、中村明男メダカ、伊藤英雄メダカ、大島たまよメダカ、水村春江メダカ、松本芳廣メダカ、村松達雄メダカには後日連絡することに。久しぶりの開校楽しみです。(事務局 バラメダカ)

■第30期の受付をしています。

第29期は、実質6月の第115回めだかの学校で終わります。第30期は令和4年9月1日から5年8月31日までです。毎年度手続きが必要です。継続手続きは、6月4日の第115回めだかの学校から受け付けます。申込書に入学金1000円を添えて提出してください。継続手続きのなされない生徒は名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。登校できない生徒は8月31日までに提出してください。新しく希望される方がいましたら連絡ください。申込書と資料送ります。

■今回も遅れました。ごめんなさい。
いつもご協力いただいています石野省三メダカ、田村進治メダカ、秋山勝則メダカ、伊藤英雄メダカ、水島加寿代メダカ、まとめて下さる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、令和4年8月1日予定。締切7月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙・FAX・LINE・FBでメールの方は、
《mabuchi-tr@vtr.nc.ne.jp》
間瀬亮太090・5009・0986です。
(メールの方は割付の関係もあるので「報せ」)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39・62・6691 (FAX 同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・77
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。
携帯 080・1612・9130

